るには高い見地に立ってシステム相互にバランスのとれた設計や運用のできる技術者が必要となってきている．

日本工業大学に入学してくる学生の大半はすでに工業高校において機械，電気，情報関係などの専門知識を修得している．そこで，それらの専門知識を基礎とし，さらに深め，主として生産システムに重点を置いて生産技術，管理技術を修め，正確な情報を計算機ですみやかに処理できる技術者の養成をめざしている．

生産システムは物の流れと情報の流れの両方が有機的に結合されてはじめて効率的な運営がなされるもので，このため，カリキュラムは情報システム系，生産管理システム系，生産技術系の科目が配置され，卒業研究に結びついている．

情報システム系の主な科目には「マイクロコンピュータ」「コンピュータ・コミュニケーション」「数理統計・演習」「オペレーションズ・リサーチ」がある．数理統計，オペレーションズ・リサーチ，そして計算機関係の科目には演習の時間を設けている．

生産管理システム系には「インダストリアル・エンジニアリング」「生産管理」「品質管理」などがあり，それぞれ関連の実験と結びついている．

生産技術系には「制御工学および演習」「ロボット工学」「生産加工学」などがあり，やはり関連の実験と結びついている．

以上3つの系を縦の糸とすれば，横の糸として，1年次に「システム工学概論」という半期の科目がある．これは全教員が交代で講義を行ない，学科の全体像を提示しようとするものである．また，3年次の「生産システム工学」によってそれまでに学んだ科目の横の連絡をつけるよう試みている．　（土井　誠）

放送大学

（私は一介の教員にすぎず，放送大学のすべてを紹介する資格もなければ力量もない．ただ当学会の会員としては，現在学内で唯一の存在と思われるところから，執筆依頼にこたえて感想その他を羅列することにした．誤解や偏見が含まれているかもしれないこと，また表面的事項は本学のパンフなどにゆずり，これらは極力省くこと等につき，あらかじめ大方のご了解を得ておきたい）

波瀾万丈の中を船出

聞けば大学紛争を契機に放送大学の構想が生まれ，その法案が数次にわたって，国会に提出されて難航のすえ開学にこぎつけたようである．しかもまだ十分スタッフが揃わないうちに早々と臨調から費用効果の点で7年後見直すとのきびしい足カセをはめられたという．〈行革〉の名の大波を乗り切るには，舳先を波に向けエンジンを全開して進むよりほかはないと覚悟している．特に私ら還暦をすぎた者は，従来以上の辛酸を喜びに転化させないと，とてもやっていけないと思うほどでもある．

教養の理念・理想を求めて

本学はその構成上からいうと，6専攻を包摂した教養学部だけのいわば単科大学である．街に文化教室やら学習サークルやらが氾らんし，軽(かる)チュア時代とやゆされている昨今，いまさら全額政府出資の教養クラブでもあるまいとの陰口も聞かれる．それに，既存の大学の教養部と混同され〈盲腸大学〉と冷評されるのはまだしも，単位互換制度のためか多くの大学の教養部の先生方からは敵視さえされている由である．そのような四面楚歌のあいだにあって，新しい時代の教養の理念や理想の追求を建学の精神にしようと，教職員一同は連日悪戦苦闘している．合戦の旗印には，教養は専門知識の基礎というより，それらの統合でなければならず，われわれの科目はポスト専門科目であるべきとの認識が掲げられているはずである．

OR関連科目のいろいろ

理想的な意味での教養をめざすとはいいながら，多くの学問分野を修得させようとするわけであるから，授業科目が勢い総花的になるのはやむをえない．したがってORそのものに属する科目の数は当然限定され，「産業と技術」専攻に若干見られる程度にすぎない．すなわち，社会系基礎科目のうちの「数理計画法入門」および「産業と技術」専攻の専門科目とされている「生産管理とOR」「経営科学」「経営戦略」「システム工学」等がそうである．むろんORの関連科目としては，自然系基本科目の中の「数学と人間生活」をはじめ，自然系基礎科目の1つの「確率論・統計学」，「社会と経済」専攻の専門科目である「政策科学」，さらには「産業と技術」専攻の専門

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

コース	専攻	教育目標
生活科学	生活と福祉	知性豊かな生活を築くために，衣食住・健康・福祉など生活にかかわる諸問題への理解を深めること．
	発達と教育	育児や青少年の教育・指導のための基本的な知識を習得するとともに，人間における教育の役割を理解すること．
産業・社会	社会と経済	政治・経済・社会の仕組みと動きに関する基本的な問題を理解すること．
	産業と技術	産業・技術の発展の動向や経営管理のあり方について一般的な知識を得ること．
人文・自然	人間の探究	現代・文明と地域・文化の特質とその発展の歴史を探るとともに，人間の思想・文学・芸術などについて理解を深めること．
	自然の理解	自然の本質について種々の視点から学び，認識を深め，また自然と人間生活との深いかかわり合いを理解すること．

科目群の中の「マーケティング」「計測と制御」「情報工学」「経営分析と財務管理」等々が考えられよう．

密室口伝から公開講述へ

従来の大学では講義室という密室での口述で十分であったが，放送大学においては正規の学生以外にも，不特定多数の聴取者または視聴者を相手に，文字どおりの公開講義を実施することになる．その対象の中には，あるいは斯学の権威がおられるかもしれないし，ひやかし半分の同学の士が加わっていないとも限らない．“これくらいのことしか話せないのか”といわれそうな気がし，ラジオ番組やテレビ番組の収録に当って，それらの碩学・同輩の幻が脳裏をかすめ，足はすくみ目はかすみ，いよいよ錯乱のありようが一再にとどまらなかった．その結果，当初講述対象は学生と重々承知していても，内容の程度はいつしか高くなりそうで困った．実際，講義内容の水準調整に苦慮しているうちに時間を忘れ，講述の終り近くになれば時間に追われ，大抵しどろもどろの醜態をさらけ出すのが落ちだった．

テキスト作成の苦心

本学は入試は一切しないうえ，成人教育および生涯教育を兼ねることを標榜しているだけに，学生の年齢や経験などは大きくばらつくものと予想される．私の所属する「産業と技術」専攻では，おそらく中年のサラリーマンが大半を占めようが，なかには一般学生はもちろん老齢者や主婦も入学してくるにちがいない．そのような知識・体験のそれぞれ異なる人たちに等しく理解してもらうのに，なみの苦労で片づかないことは目にみえている．本学では放送授業とともに印刷教材(テキスト)による学習を義務づけている関係上，テキストの内容も安易に書き流してすませるものではない．ここでも大学教育の程要度を落とさず，しかも誰にもわかりやすくとの矛盾した請に苦汁をなめさせられ，ORによればどんな難問もたちまち一件落着するかのように説いてきた自分の不明を恥じるばかりであった．

「数理計画法入門」の内容

既述の「生産管理とOR」の科目は，本学の客員教授で東工大の秋庭雅夫教授が担当され，「数理計画法入門」については専任教員の私が担当させられた．数理計画法の分野では私よりはるかに適任の方が多くおられるにもかかわらず，専任教員優先の原則から最適割当の理論もあらばこそ，私が指名されてしまったのが真相である．しかもこの科目は，放送教育開発センターによる実験番組に組み込まれ，放送大学による正式放送（昭和60年4月開始）に先立ちテレビ朝日から放映されるという悲運

●事務局より●

下記の資料は残部がございますので，ご希望の方は学会事務局までお申し込みください．

- 1985年春季研究発表会アブストラクト集
- 1985年秋季研究発表会アブストラクト集
  会員頒価　4000円　送料　250円
- 第12回シンポジウム「信頼性とOR」予稿集
- 第13回シンポジウム「地理的情報の処理に関する基本アルゴリズム」予稿集
  会員頒価　2000円　送料　240円

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

にさえ見舞われた．そのため準備期間は極端に短くなり講義内容の検討における三面六臂の努力も空しく，番組録画にはまさしく四苦八苦した．ところで言いわけはどの道いいわけがないので，あとは黙して15回のテーマを記すにとどめよう．1.数理計画法概説　2.ＬＰの具体例 3.ＬＰの構造　4.シンプレクス法(1)　5.同(2)　6.各種の特殊解法　7.2段階シンプレクス法　8.実施上の検討(1)　9.同(2)　10.モデルの改変　11.双対問題と整数解問題　12.特殊問題の解法　13.ＣＰＭの解法 14.数理計画法利用の実際(1)　15.同(2).最後の第14，15回において，三菱石油の高井英造・大槻健の両氏により，下手な画竜に睛を点じていただいた．

Per ardua gradior.

本学学生の学習方法は，放送授業の視聴，印刷教材などの学習のほか，学習センターにおける面接授業の受講から成る．その面接授業には，当学会のメンバーの方々のご協力を得ることになっている．今野浩東工大教授，米沢慎吾東理大教授，西田直矩同助教授，柴田幸夫群大助教授，清水明千工大講師，細野泰彦武工大講師，斉藤雄志電力中研室長の各先生である．これらの先生方が本務以上の苛酷な条件をのまれて快くご出講くださる熱意に，私自身一学徒として鞭打たれる思いを禁じえない．そういえば，本年の年賀状の末尾に Per ardua gradior.(艱難を通して私は進む)と付記したのも，上記のような精神の昂揚があったからだったろう．

教学相長ず

放送メディアを利用して大学教育を行なう機関は，イギリスのオープン・ユニバーシティのほか海外に数多現存する．しかし，独自の放送局をもって正規の大学教育を実施するのは，世界でも本学をもって嚆矢とする．それだけに本学は，生れながらに背後に臨調のきびしい注視を浴びつつ，試行錯誤をくりかえし育っていかざるをえない運命を背負っている．ここで私は，学生諸君になけなしの知識を伝えるだけでなく，彼らの旺盛な向学心に教えられるとともに，あいたずさえて放送大学の提供する各種科目について学び，新しい意味での教養の修得を志そうと思う．かくて，また1つ信条が生まれた――〈学生に教え，大学を育て，自己が学ぶ．〉

なお参考までに，本学のすべてのコースと専攻，および各専攻の教育目標を付記しておく．　（加瀬滋男）

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．